

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、特記すべき事項はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間の経済環境を概観しますと、世界的な金融緩和のもと、全体として緩やかな回復傾向が続きました。米国は雇用の改善と堅調な消費で回復基調を維持し、欧州は引き続き後退局面にあるものの、一部に下げ止まりの兆しが見られました。一方、中国、インドを中心とする新興国経済については、減速傾向が強くなりました。

こうした中、わが国経済は、いわゆるアベノミクスによる各種経済政策の効果により、円安・株高となり、企業や家計の景況感が改善しました。

このような環境のもと、豊田通商グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は新規連結会社及び円安による為替の影響により、前年同四半期連結累計期間を2,563億円（15.6%）上回る1兆8,964億円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、周辺環境の変化に対応するため、平成25年4月1日より一部の本部を改編し、また、生活産業・資材本部については名称を生活産業本部に変更しております。

#### ①金属

鉄鋼分野では、海外自動車生産増加に 대응するため事業会社の能力増強に取り組みました。非鉄金属分野では、引き続きレアアースの生産に取り組みました。鉄鋼原料分野では、顧客サービス向上のため鉄鋼原料部を環境・リサイクル事業推進部に統合しました。売上高については、国内及び中国の自動車生産台数の減少はあったものの、円安による為替の影響により、前年同四半期連結累計期間を67億円（1.5%）上回る4,564億円となりました。

#### ②グローバル生産部品・ロジスティクス

インドネシア最大の自動車部品メーカーであるPT Astra Otoparts Tbkに出資し、同国における自動車関連事業の更なる拡大・強化を図りました。売上高については、中国の自動車生産台数の減少はあったものの、円安による為替の影響により、前年同四半期連結累計期間を80億円（3.7%）上回る2,202億円となりました。

#### ③自動車

資本参画したCFAO S. A. との協業をより強固にするため、戦略提携事業部を新設しました。また、ケニアでの日野自動車株式会社のトラック現地組み立てを開始するとともに、拠点を新設し、販売・サービスを開始しました。売上高については、海外の自動車販売増加及び新規連結会社の影響により、前年同四半期連結累計期間を1,014億円（49.9%）上回る3,046億円となりました。

#### ④機械・エネルギー・プラントプロジェクト

機械分野では、事業効率化のため、電子装置部をユニット機械部へ統合しました。エネルギー・プラントプロジェクト分野では、国内の風力・太陽光発電事業の開発に注力しました。売上高については、主に石油製品等の取り扱い増加により、前年同四半期連結累計期間を579億円（17.1%）上回る3,961億円となりました。

#### ⑤化学品・エレクトロニクス

化学品分野では、マレーシアのリサイクル樹脂コンパウンド会社であるMetro Wealth Polymer Sdn Bhdに出資し、現在取り組み中のバイオ樹脂とともに、環境に優しい樹脂材料への更なる取り組み強化を図りました。エレクトロニクス分野では、HEV事業をより一層強化するためHEV事業推進部を新設しました。売上高については、主に新規連結会社の影響により、前年同四半期連結累計期間を728億円（22.9%）上回る3,905億円となりました。

#### ⑥食料

穀物分野では、豪州の穀物集荷・輸出事業会社の機能を活用して、日本及び東南アジア諸国への豪州産穀物の販売拡大に取り組みました。食品分野では、農業生産法人株式会社ベジ・ドリーム栗原が、隣接工場自家発電機の廃熱を有効利用したパブリカの生産実証実験を開始しました。また、株式会社Jーオイルミルズ及びインドのRuchi Soya Industries Limitedと共同で、高付加価値植物油の製造会社を設立することで合意しました。売上高については、新規連結会社の影響及び市況の上昇により、前年同四半期連結累計期間を111億円（14.4%）上回る875億円となりました。

⑦生活産業

既存事業とのシナジーを図るため、自動車用品・資材及び産業資材分野をグローバル生産部品・ロジスティクス本部に移管するとともに、保険分野では、顧客サービス向上等のため、豊通保険カスタマーセンター株式会社と豊通ファミリーライフ株式会社を統合し、新たに国内トップクラスの保険代理店となる豊通保険パートナーズ株式会社を発足させました。売上高については、ライフスタイル分野にて事業の選択と集中を進めた結果、前年同四半期連結累計期間を11億円（2.6%）下回る403億円となりました。

利益につきましては、営業利益は売上総利益の増加等により409億15百万円となり、前年同四半期連結累計期間（263億43百万円）を145億72百万円（55.3%）上回りました。経常利益は460億69百万円となり、前年同四半期連結累計期間（349億51百万円）を111億18百万円（31.8%）上回りました。一方で、税引後の四半期純利益は、前年同期の段階取得に係る差益の影響等により前年同四半期連結累計期間（226億71百万円）を8億92百万円（3.9%）下回る217億79百万円となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において、特記すべき事項はありません。